

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
会長講演	CL	池内 健	遺伝要因に着目したアルツハイマー病のゲノム医療への展望	○
理事長講演	PL	岩坪 威	アルツハイマー病治療薬の開発と臨床実装	○
特別講演1	SL1	田中 耕一	認知症を「認知する」ための方法は？	×
特別講演2	SL2	児玉 安司	超高齢社会とインフォームド・コンセントの変容	○
特別企画	SP-1	福田 光紀	共生社会の実現に向けて経済産業省が進める認知症分野の取組について	○
特別企画	SP-2	江川 齊宏	認知症施策の動向	○
海外招聘講演1	IL1	Jean-Charles Lambert	Step by step: towards a better understanding of the genetic architecture of Alzheimer's disease	○
海外招聘講演2	IL2	Sangram S. Sisodia	Modulation of A β Amyloidosis and Neuroinflammation by the Gut Microbiome	○
海外招聘講演3	IL3	Randall J. Bateman	Ten Years of Transformative Progress in Alzheimer's Dementia Research: From DIAN Insights to AI-Powered Discovery	×
ホットトピックス	HT	堀江 勘太	脳内 α 病を同定する体液バイオマーカーの新展開	○
プレナリーレクチャー1	PLL1	柿田 明美	認知症をきたす疾患の神経病理学 Neuropathology of dementia disorders: insights into practical diagnosis and cellular mechanisms	○
プレナリーレクチャー2	PLL2	小野寺 理	加齢性認知症における脳小血管病：血管壁マトリックス恒常性破綻を標的とした新戦略	○
プレナリーレクチャー3	PLL3	池津 康哉	細胞外小胞を標的とした治療法とバイオマーカーとしての応用	○
プレナリーレクチャー4	PLL4	長谷川 成人	認知症疾患の異常タンパク質蓄積機構の解明と治療法開発	×
学術教育講演1	EL1	中村 和利	村上コホト研究から得られた認知症のリスク・防御因子	○
学術教育講演2	EL2	五十嵐 博中	上善如水－脳における水の動態	○
学術教育講演3	EL3	高堂 裕平	画像バイオマーカーで読み解く認知症の病態と診療	○
学術教育講演4	EL4	菊地 正隆	オミクス情報解析から迫る認知症メカニズムの解明	○
学術教育講演5	EL5	新井 康通	百寿者と超百寿者の特性と認知機能	○
学術教育講演6	EL6	村上 秀友	レビー小体病にみられるアルツハイマー病	○
学術教育講演7	EL7	米田 誠	橋本脳症と認知症	○
学術教育講演8	EL8	笠貫 浩史	老年期精神障害はどこに向かうのだろうか	○
学術教育講演9	EL9	他田 真理	認知症における神経病理学の見方、考え方	×
学術教育講演10	EL10	池津 聖子	認知症における遺伝子核酸医療の現状と展望	○
学術教育講演11	EL11	岡村 肇	自然の中の認知症ケア：食べて、祈って、耕して	○
学術教育講演12	EL12	和田 健二	認知症疾患診療ガイドライン update	○
学術教育講演13	EL13	薬師寺 祐介	医原性脳アミロイド血管症－歴史的背景と今後のサーベーランス－	○
シンポジウム1	SY1-1	Michael Irizarry	Lecanemab CLARITY AD Study and Open Label Extension: Target Engagement and Initial Findings from the 48-Month Analysis in Early Alzheimer's Disease (AD)	○
シンポジウム1	SY1-2	Stephane Epelbaum	Amyloid Plaque Clearance and Long-term Donanemab Therapy in Alzheimer's Disease	×
シンポジウム1	SY1-3	Yoshiaki Tsunoda	Clinical Development of Semaglutide in early Alzheimer's Disease	○
シンポジウム1	SY1-4	Janice Smith	Latest results and next development steps for trontinemab in Alzheimer's disease	○
シンポジウム2	SY2-1	遠藤 浩信	異常凝集蛋白イメージングの現状と展望	×
シンポジウム2	SY2-2	小縣 紗	認知症におけるミクログリアPETイメージングの可能性	×
シンポジウム2	SY2-3	関 守信	認知症関連神経変性疾患におけるlymphatic system機能のMRI評価とその将来展望	×
シンポジウム2	SY2-4	廣瀬 匠	目指したい認知症治療・予防の未来の実現へ向け、嘱望されるイメージング技術	○
シンポジウム3	SY3-1	正井 久雄	核酸高次構造「グアニン四重鎖」の生物学的意義	○
シンポジウム3	SY3-2	朝光 世煌	神経細胞におけるRNAグアニン四重鎖構造の病態生理学的役割	○
シンポジウム3	SY3-3	矢吹 悌	RNAグアニン四重鎖を足場としたαシヌクレイン凝集と神経変性機構の解明	×
シンポジウム3	SY3-4	永井 義隆	C9-ALS/FTDの病態基盤：グアニン四重鎖RNAを標的としたFUSによるRAN翻訳制御	×
シンポジウム4	SY4-1	小原 知之	認知症発症のバイオマーカー探索：久山町研究	○
シンポジウム4	SY4-2	石塚 直樹	YAHABA study	○
シンポジウム4	SY4-3	伊賀 淳一	伊予市中山町調査から考える認知症発症/認知機能低下のリスク低減	○
シンポジウム4	SY4-4	木村 成志	高齢者の認知機能低下のリスク低減に効果的な生活習慣～USUKI STUDYの成果～	○
シンポジウム4	SY4-5	櫻井 孝	認知症予防を目指した多因子介入研究（J-MINT）で明らかになったこと	○
シンポジウム5	SY5-1	藤城 弘樹	認知症と睡眠障害の関係について-臨床神経病理学の観点から-	○
シンポジウム5	SY5-2	林 悠	認知症に伴う睡眠構築の破綻のメカニズムと作用	×
シンポジウム5	SY5-3	皆川 栄子	睡眠の異常と認知症病態－異常タンパク質蓄積の観点から－	×
シンポジウム5	SY5-4	竹内 春樹	超高齢化社会における嗅覚の可能性－匂いによる認知症の予測と予防法の確立－	×

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
シンポジウム6	SY6-1	櫻林 哲雄	BPSD理解と治療に対する神経画像検査の有用性	○
シンポジウム6	SY6-2	山中 克夫	データサイエンスに基づいた適切な対応法の考え方	○
シンポジウム6	SY6-3	品川 俊一郎	BPSDに対する薬物療法 最新のシステムティックレビューの結果から	○
シンポジウム6	SY6-4	吉山 顯次	BPSDに対する非薬物療法 最新のシステムティックレビューの結果から	○
シンポジウム6	SY6-5	數井 裕光	BPSDに対する包括的治療	○
シンポジウム7	SY7-1	二宮 利治	地域高齢住民における認知症有病率の時代的推移とその要因：久山町研究	○
シンポジウム7	SY7-2	木村 成志	ウェアラブル生体センサを用いたコホート研究による予防法と早期診断技術の開発	○
シンポジウム7	SY7-3	篠原 もえ子	生活習慣・生活習慣病の管理と認知症リスク低減	○
シンポジウム7	SY7-4	櫻井 孝	認知症予防を目指した多因子介入研究 (J-MINT) と社会実装	○
シンポジウム7	SY7-5	村山 洋史	フレイル予防を目指した地域介入は認知症予防にも資する：兵庫県養父市での実装研究	○
シンポジウム8	SY8-1	佐治 直樹	加齢性難聴と認知症：文献レビューからの展望	○
シンポジウム8	SY8-2	宮田 季美恵	認知機能と眼疾患	○
シンポジウム8	SY8-3	川上 暢子	認知症疾患における聴覚障害－原発性進行性失語を中心とした考察	○
シンポジウム8	SY8-4	西尾 慶之	視空間認知障害と視覚錯覚：神経変性疾患とその周辺	○
シンポジウム9	SY9-1	木本 克彦	口腔機能と認知症・認知機能との関連性－動物実験から疫学研究まで－	○
シンポジウム9	SY9-2	眞鍋 雄太	医科臨床への展開が期待できる認知症性疾患と口腔機能の関連に関する知見	○
シンポジウム9	SY9-3	笛木 賢治	認知機能と口腔機能の関連についての医科歯科連携研究プロジェクト	○
シンポジウム10	SY10-1	布村 明彦	認知予備能・レジリエンスの概念	○
シンポジウム10	SY10-2	金田 大太	レジリエンスを紐解くための神経病理	×
シンポジウム10	SY10-3	木谷 晃広	遺伝子発現データを用いた機械学習によるアルツハイマー病の認知レジリエンス予測	○
シンポジウム10	SY10-4	葛谷 聰	バイオマーカーを用いたアルツハイマー病認知レジリエンス研究	○
シンポジウム11	SY11-1	清水 聰一郎	AA改訂新基準概要と診療からの視点	×
シンポジウム11	SY11-2	石井 賢二	AA改訂診断基準（2024）における画像バイオマーカーの位置付けと意義	○
シンポジウム11	SY11-3	春日 健作	AA改訂診断基準における体液バイオマーカーの位置づけと意義	○
シンポジウム11	SY11-4	松原 知康	神経病理からみたAA改訂診断基準概要	○
シンポジウム12	SY12-1	西原 秀昭	患者由来iPS細胞を用いたCADASILの病態解明と創薬研究への応用	×
シンポジウム12	SY12-2	伊藤 素行	ゼブラフィッシュを用いたCADASIL病態モデルの開発と病態進展メカニズムの解明	×
シンポジウム12	SY12-3	齊藤 聰	CADASILの個別化医療に向けた疾患モデル開発の最前線	○
シンポジウム12	SY12-4	水田 依久子	CADASILの病態解明研究および特定臨床研究LOMCAD試験の概要	○
シンポジウム13	SY13-1	早野 元詞	エピゲノムを介した後天的老化制御	○
シンポジウム13	SY13-2	橋本 浩介	百寿者免疫細胞の1 細胞トランスクリプトーム解析	○
シンポジウム13	SY13-3	仲木 竜	DNAメチル化に基づく生物学的年齢評価と認知症予防への応用	×
シンポジウム13	SY13-4	山田 秀和	Epigenetic Clockによる老化評価と健康資産化	○
シンポジウム14	SY14-1	小佐見 光樹	日本におけるプリオントーキンスの概況と孤発性CJD疑い例の増加	○
シンポジウム14	SY14-2	松林 泰毅	孤発性CJD早期の脳波変化と治験開始のタイミング	○
シンポジウム14	SY14-3	佐藤 克也	治験に向けたバイオマーカー活用による次世代診断アルゴリズム確立	○
シンポジウム14	SY14-4	桑原 宏哉	プリオントーキンスに対する個別化核酸医薬創薬の可能性	○
シンポジウム14	SY14-5	照屋 健太	治療薬開発の現状と将来の展望	×
シンポジウム15	SY15-1	内門 大丈	認知症医療と地域づくりの実践－DEI視点の重要性を踏まえて－	○
シンポジウム15	SY15-2	牧之瀬 潤	若年性認知症の方と共に創る地域共生社会－「伴走型支援」の実践－	○
シンポジウム15	SY15-3	東 晋二	DEIを踏まえた認知症専門医の未来について	○
シンポジウム15	SY15-4	坂内 博子	DEIを踏まえた研究室の未来について：理工学視点からの認知症へのアプローチ	○
シンポジウム16	SY16-1	木下 彩栄	脳健診の現状と課題	○
シンポジウム16	SY16-2	関島 良樹	脳健診と認知症の診断バイオマーカー（APOE遺伝子を中心とした）	○
シンポジウム16	SY16-3	井原 涼子	フレクリニカルアルツハイマー病の認知機能の特徴	○
シンポジウム16	SY16-4	新堂 晃大	脳健診施設と治療施設の連携構築	○
シンポジウム16	SY16-5	春日 健作	フレクリニカル期のバイオマーカー検査	○

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
シンポジウム17	SY17-1	服部 信孝	シヌクレインンバーチーにおける生物学的バイオマーカーの意義	○
シンポジウム17	SY17-2	田井中 一貴	生体組織の透明化技術で凝集体を探る	○
シンポジウム17	SY17-3	井上 治久	iPS神経・オルガノイドを用いた認知症病態機構の研究	×
シンポジウム17	SY17-4	小野 賢二郎	ヒト脳脊髄液からアミロイド β 凝集体を探る	○
シンポジウム18	SY18-1	鈴木 啓介	認知症治療の効率化を目指した取り組み～MCIレジストリ、そして次のステップへ～	○
シンポジウム18	SY18-2	新美 芳樹	治験等認知症臨床研究のリクルートと認知症研究プラットフォーム	○
シンポジウム18	SY18-3	村松 隆	製薬企業からみた認知症治療の課題と展望	○
シンポジウム18	SY18-4	木村 紗弥佳	治験の推進に向けたGCP省令改正の方向性	×
シンポジウム19	SY19-1	稻川 雄太	抗アミロイド β 抗体薬の選択と18か月以降の継続投与	○
シンポジウム19	SY19-2	成瀬 聰	新潟市における抗A β 抗体療法の医療連携について	○
シンポジウム19	SY19-3	北村 ゆり	高知県における脳神経外科と精神科の連携による循環型抗アミロイド抗体薬投与	○
シンポジウム19	SY19-4	森原 隆太	抗A β 抗体薬治療に伴うAPOE遺伝子型検査の実際	○
シンポジウム19	SY19-5	新美 芳樹	リアルワールドでのエビデンス構築を目指すAD-DMT レジストリ	○
シンポジウム20	SY20-1	Szofia Bullain	BIIIB080 MAPT-targeting ASO clinical development update	○
シンポジウム20	SY20-2	Jose-Alberto Palma	Development of Intrathecal siRNA Targeting MAPT for AD and SNCA for Parkinson's.	○
シンポジウム20	SY20-3	小牧 宏文	筋ジストロフィーにおける遺伝子治療の期待と今後の課題	○
シンポジウム20	SY20-4	荒木 康弘	本邦における医薬品開発の現状及び新規モダリティ治療薬実用化への期待と課題	○
シンポジウム21	SY21-1	重水 大智	日本人におけるレビー小体型認知症の全ゲノム解析	×
シンポジウム21	SY21-2	皆川 栄子	レビー小体型の病態と睡眠の異常の双方向的関係性	×
シンポジウム21	SY21-3	平賀 経太	レビー小体型発症ハイスク者との病態とバイオマーカー	×
シンポジウム21	SY21-4	竹田 和弘	精神科診療におけるレビー小体型認知症	×
シンポジウム22	SY22-1	橋谷 愛理	クライオ電子顕微鏡法による神経変性疾患の病態解明	×
シンポジウム22	SY22-2	松永 康佑	シミュレーションと機械学習によるタウタンパク質の逆フォールディング解析	○
シンポジウム22	SY22-3	田上 俊輔	単純化したタンパク質のフォールディングで探る生命誕生・初期進化	○
シンポジウム22	SY22-4	坪山 幸太郎	AIと大規模データによる、人工タンパク質の合理設計への挑戦	○
シンポジウム23	SY23-1	笠貫 浩史	「新しい認知症観」と認知症の人の理解	○
シンポジウム23	SY23-2	水島 俊彦	認知症基本法及び基本計画の趣旨を踏まえた新たな権利擁護事業の創設に向けて	○
シンポジウム23	SY23-3	内田 直樹	認知症の人の社会参加とバリアフリー社会の推進	○
シンポジウム23	SY23-4	武田 章敬	認知症のための保健医療サービス提供体制の整備	○
シンポジウム23	SY23-5	吉川 悠貴	認知症高齢者に対する虐待防止と介護専門職の人材育成	○
シンポジウム24	SY24-1	平林 祐介	大脳皮質興奮性ニューロンの多くのミトコンドリアはミトコンドリアDNAを持たない	×
シンポジウム24	SY24-2	佐藤 栄人	パーキンソン病の分子病態とミトコンドリア品質管理の破綻	×
シンポジウム24	SY24-3	尾内 康臣	生体ミトコンドリア活性イメージングを用いた脳生理・脳病態研究	×
シンポジウム24	SY24-4	山田 勇磨	ミトコンドリア標的型ナノカプセルによる神経疾患モデル治療と遺伝子変化の試み	×
シンポジウム25	SY25-1	長谷川 良平	脳波スイッチを用いた認知トレーニングシステムの開発と対戦型スポーツへの展開	○
シンポジウム25	SY25-2	平田 雅之	植込み型ブレインマシンインターフェースによる嚥下機能再建	×
シンポジウム25	SY25-3	田中 久弥	P300スペラー型BCIの誤入力特性による認知機能検査法	○
シンポジウム25	SY25-4	茨木 拓也	簡易脳波デバイスを利用した音楽インターフェースの開発と認知機能への影響の検証	○
シンポジウム26	－	塩瀬 拓人	症例1. めまいで発症し、進行性のパーキンソニズム、認知機能低下を呈した67歳剖検例	○
シンポジウム26	－	池上 いちこ	症例1. めまいで発症し、進行性のパーキンソニズム、認知機能低下を呈した67歳剖検例	○
シンポジウム26	－	齋藤 理恵	症例1. めまいで発症し、進行性のパーキンソニズム、認知機能低下を呈した67歳剖検例	○
シンポジウム26	－	石原 智彦	症例1. めまいで発症し、進行性のパーキンソニズム、認知機能低下を呈した67歳剖検例	○
シンポジウム26	－	栗原 正典	症例2. 84歳時にパーキンソニズムで発症し、6年後に認知症を合併、全経過9年で死亡した93歳女性剖検例	○
シンポジウム26	－	松原 知康	症例2. 84歳時にパーキンソニズムで発症し、6年後に認知症を合併、全経過9年で死亡した93歳女性剖検例	○
シンポジウム27	SY27-1	中嶋 秀人	ウイルス感染症と認知症：病態メカニズムと予防戦略の展望	○
シンポジウム27	SY27-2	森 泰子	水痘・帯状疱疹ウイルスと認知症	○
シンポジウム27	SY27-3	横山 和正	単純ヘルペスウイルス(HSV)感染症と認知症	○
シンポジウム27	SY27-4	下畠 享良	COVID-19後遺症としての認知機能障害	○
シンポジウム27	SY27-5	黒田 隆之	Epstein-Barrウイルス感染による認知症リスクの検討	○

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
シンポジウム28	SY28-1	大平 雅之	認知症者を取り巻く法的問題点～後見制度を含めて	○
シンポジウム28	SY28-2	齋藤 正彦	認知症者の身体拘束最小化を目指した取り組み	○
シンポジウム28	SY28-3	玉岡 晃	認知症者の遺言能力の判定の現況と課題	×
シンポジウム28	SY28-4	三村 將	認知症の人の意思決定支援	○
シンポジウム29	SY29-1	村上 一馬	筋萎縮性側索硬化症におけるメタアグリゲートの探索研究	×
シンポジウム29	SY29-2	矢吹 恰	RNAグアニン四重鎖によるTau凝集と神経軸索障害機構の解析	×
シンポジウム29	SY29-3	中山 隆宏	メタアグリゲート形成過程の構造動態可視化に向けた高速AFM技術の応用と展望	×
シンポジウム29	SY29-4	朽尾 豪人	NMR分光法を用いたα-シヌクレインとG4RNAの相互作用解析	×
シンポジウム29	SY29-5	長尾 知生子	グアニン四重鎖の分子機能解明と創薬に向けた立体構造予測	○
シンポジウム30	SY30-1	竹内 千仙	ダウン症候群の認知症（DS-AD）の現状と課題－生涯を通じた支援体制の構築に向けて－	○
シンポジウム30	SY30-2	笠井 高士	ダウン症候群に伴う認知症（DS-AD）の診断と治療：バイオマーカーと治療開発の最前線	○
シンポジウム30	SY30-3	竹之下 慎太郎	ダウン症候群における精神医学的合併症と包括的医療体制の構築における課題	○
シンポジウム30	SY30-4	高下 かおり	ダウン症候群の高齢期の支援～医療・福祉連携課題～	○
シンポジウム31	SY31-1	花岡 晋平	抗アミロイドβ抗体薬のADL自立延長と介護費用に及ぼす影響の推定	○
シンポジウム31	SY31-2	池田 俊也	日本におけるアルツハイマー病に伴う経済的負担	○
シンポジウム31	SY31-3	丸木 雄一	レカネマブ、今までとこれから、当院の経験から	○
シンポジウム31	SY31-4	久住呂 友紀	抗アミロイド療法の臨床と経済評価の基盤形成	○
シンポジウム31	SY31-5	伊東 大介	抗アミロイドβ抗体薬時代におけるアルツハイマー病の診断プロセス、治療ストラテジー	○
シンポジウム32	SY32-1	前澤 聰	加齢・認知症に対する脳内ネットワーク研究とニューロモデュレーションへの期待	○
シンポジウム32	SY32-2	鷗原 良仁	Non-Pharmacological Neuromodulation for Cognitive Improvement in Dementia	○
シンポジウム32	SY32-3	越智 さと子	高齢者てんかんに対するVNS 認知機能への影響を含め	○
シンポジウム32	SY32-4	花田 朋子	本態性振戦等に対する MRgFUS 高齢者への適応と留意点	○
シンポジウム32	SY32-5	安中 裕紀	認知機能に対する経皮的耳介迷走神経刺激	×
シンポジウム32	SY32-6	西田 南海子	本態性振戦およびパーキンソン病に対する視床破壊術後の認知予後	○
シンポジウム33	SY33-1	小村 悠	がん領域PPIプラットフォームFairy's（フェアリーズ）による共創の実践	○
シンポジウム33	SY33-2	武藤 香織	研究参加者保護と患者・市民参画	○
シンポジウム33	SY33-3	原 等子	認知症当事者参画型研究に関する市民の意識調査にみる認知症の人と家族の参画への期待	○
シンポジウム33	SY33-4	森口 奈菜	認知症研究におけるPPIの基盤構築と実践を支える教育・啓発資材に関する国際事例調査	○
シンポジウム33	SY33-5	新美 芳樹	認知症研究におけるPPI～J-TRC研究、AD-DMTレジストリ研究の経験より	○
シンポジウム33	SY33-6	大田 秀隆	認知機能低下の早期発見・早期対応を目指したPPI-秋田モデルの構築に向けて	○
シンポジウム34	SY34-1	下山 進	アルツハイマー病研究という壮大なバトナリー	○
シンポジウム34	SY34-2	影本 菜穂子	変わる認知症観－取材を通じて気付いたこと	×
シンポジウム34	SY34-3	村川 実由紀	注目された認知症と報道の限界	×
シンポジウム34	SY34-4	岡 肇	社会に資する認知症報道の実現のために～実例から考える協働の可能性～	○
シンポジウム34	SY34-5	種岡 郁江	地域全体で取り組む認知症対策～新潟市の事例から考える～	○
シンポジウム35	SY35-1	粟田 主一	認知症疾患医療センターにおける若年性認知症の診断後支援	○
シンポジウム35	SY35-2	駒井 由起子	若年性認知症支援コーディネーターによる診断後包括的支援 混乱～生きがいある生活へ	○
シンポジウム35	SY35-3	野崎 和美	若年性認知症の“診断から支援へ”をつなぐ：認知症疾患医療センターの役割と課題	○
シンポジウム35	SY35-4	来島 みのり	NCNP病院との連携による、若年性認知症支援コーディネーターのかかわり	○
シンポジウム36	SY36-1	山田 茂樹	なぜ今、INPHから名称変更するのか？「ハキム病」をわかりやすく	○
シンポジウム36	SY36-2	鐘本 英輝	認知症専門医がタップテストを適切に行う意味	○
シンポジウム36	SY36-3	河合 亮	ハキム病診療の悩み：脳神経外科への紹介	○
シンポジウム36	SY36-4	伊閔 千書	ハキム病の病態は他の認知症疾患と関係しているのか？	○
シンポジウム36	SY36-5	山田 薫	水と脳を共に捉える-脳脊髄液研究と認知症病理研究のクロストーク	×

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
シンポジウム37	SY37-1	Kaj Blennow	The history of Alzheimer's disease biomarkers in CSF and blood	○
シンポジウム37	SY37-2	Joel Braunstein	Clinical Care Experiences and Utility of an Alzheimer's Disease Blood Test	○
シンポジウム37	SY37-3	Tobias Bittner	Blood biomarkers for Alzheimer's disease: A perspective from Roche	○
シンポジウム37	SY37-4	Naoki Kaneko	Advance of blood biomarker development utilizing mass spectrometry	○
シンポジウム37	SY37-5	Kazuto Yamashita	Clinical Utility of Highly Sensitive and Specific Plasma A β 42/40 assay	○
シンポジウム37	SY37-6	Natalya Benina	Clinical Validation of Lumipulse G pTau 217/β-Amyloid 1-42 Plasma Ratio	○
シンポジウム38	SY38-1	植田 大樹	医療AIの進歩と医師の役割	○
シンポジウム38	SY38-2	南 泰浩	認知症行動・心理症状予測のためのセンサ情報を入力とするAIシステムの構築と評価	✗
シンポジウム38	SY38-3	遠藤 浩信	画像AI解析を用いた認知症病態評価と疾患分類の可能性	✗
シンポジウム38	SY38-4	武田 朱公	デジタルバイオマーカーと AI を基盤とした認知症予防	○
シンポジウム39	SY39-1	竹本 与志人	認知症のある人の生活を支えるための経済支援	○
シンポジウム39	SY39-2	石井 敏	認知症と環境：ケアの一要素としての物理的環境	○
シンポジウム39	SY39-3	青山 聰子	認知症の診断後支援のアサポート	○
シンポジウム39	SY39-4	繁田 雅弘	認知症の人の意思決定を支援する	✗
シンポジウム40	SY40-1	田村 嘉章	認知症者における糖尿病の管理	○
シンポジウム40	SY40-2	山本 浩一	認知症者における高血圧管理	○
シンポジウム40	SY40-3	小島 太郎	認知症に合併するMultimorbidityとポリファーマシー	○
シンポジウム40	SY40-4	小川 朝生	認知症者のがん診療	○
シンポジウム40	SY40-5	梅屋 玲子	認知症高齢者に対する白内障手術の現実と課題	○
シンポジウム41	SY41-1	沖 侑大郎	危険因子を持つ高齢者への認知症予防を目指した介入の現在地	○
シンポジウム41	SY41-2	杉本 大貴	MCIを対象とした多因子介入の効果と社会実装	○
シンポジウム41	SY41-3	尾寄 遠見	認知症ディケア通所者を含む地域在住認知症者への非薬物介入	○
シンポジウム41	SY41-4	鈴木 裕子	研究からあらゆるシニア層に向けた多因子介入プログラムの浸透	○
シンポジウム42	SY42-1	徳丸 阿耶	アミロイド関連画像異常ARIAとアミロイド血管症、MRI所見の要諦と病態把握	○
シンポジウム42	SY42-2	眞木 崇州	ARIA病態におけるCAA関与機序解明と治療標的の探索	○
シンポジウム42	SY42-3	北爪 しのぶ	新規CAAモデルマウスを使ったARIAモデルの作出	○
シンポジウム42	SY42-4	石川 英洋	脳アミロイド血管症に関する画像・病理比較、バイオマーカー探索とマウスモデルの研究	○
シンポジウム42	SY42-5	薬師寺 祐介	医原性脳アミロイド血管症の画像とその診断	○
シンポジウム43	SY43-1	石井 賢二	アミロイドPETイメージング剤の適正使用ガイドライン 改訂第4版	○
シンポジウム43	SY43-2	池内 健	認知症に関する脳脊髄液・血液バイオマーカーの適正使用ガイドライン（第3版）	○
シンポジウム43	SY43-3	関島 良樹	認知症に関するAPOE遺伝学的検査の適正使用ガイドライン	○
シンポジウム43	SY43-4	新井 哲明	かかりつけ医・認知症サポート医のためのBPSDに対応する向精神薬使用ガイドライン	○
シンポジウム43	SY43-5	富本 秀和	抗アミロイド抗体薬の最適使用推進ガイドライン	○
シンポジウム44	SY44-1	山田 薫	タウ伝播を駆動する神経活動とISF中タウシード動態の解析	✗
シンポジウム44	SY44-2	武田 朱公	タウ伝播を標的とした免疫療法開発	✗
シンポジウム44	SY44-3	佐原 成彦	新たなタウオバーモデルマウスを用いたタウ毒性伝播メカニズムの探索	○
シンポジウム44	SY44-4	池津 庸哉	APOE 4型アルツハイマー病における細胞外小胞によるタウの伝播促進因子の解明	○
シンポジウム45	SY45-1	田中 稔久	認知症疾患医療センターの今までの歴史と役割	○
シンポジウム45	SY45-2	井原 涼子	これからの認知症疾患医療センターの役割－抗体薬を安全かつ適切に用いるために	○
シンポジウム45	SY45-3	繁信 和恵	これからの認知症疾患医療センターの役割－地域連携の拠点としての役割－	○
シンポジウム45	SY45-4	中西 亜紀	これからの認知症疾患医療センターの役割～災害と認知症の視点から～	○
シンポジウム46	SY46-1	繁田 雅弘	精神療法に重点を置いた認知症診療の意義；精神科診療所の価値	○
シンポジウム46	SY46-2	奥村 歩	メモリークリニック開業医は存続できるのか？	○
シンポジウム46	SY46-3	吉山 容正	クリニックにおける認知症治療	○
シンポジウム46	SY46-4	井門 ゆかり	脳神経内科クリニック物忘れ外来での診療～認知症の早期診断と治療～	○
シンポジウム46	SY46-5	藤本 直規	もの忘れクリニックは進化する－疾患修飾薬時代にできること－	○
シンポジウム47	SY47-1	高橋 純子	東日本大震災における岩手県の医療活動と認知症支援を含む避難所の実態と課題	○
シンポジウム47	SY47-2	石木 愛子	東日本大震災からの学びと提言	○
シンポジウム47	SY47-3	片山 祎夫	西日本豪雨における認知症高齢者への対応	○
シンポジウム47	SY47-4	篠原 もえ子	能登半島地震が地域住民の認知機能に及ぼす影響調査	○

第44回日本認知症学会学術集会 オンデマンド配信一覧

※ポスター発表、共催セミナー、市民公開講座、研究者交流プログラムのオンデマンド配信はありません。

セッション名	演題番号	演者名 ※敬称略	演題名	配信可否
シンポジウム48	SY48-1	芳野 弘	認知症ケアチーム活動の視点からみた認知症とフレイルについて	○
シンポジウム48	SY48-2	竹下 悠子	認知症患者を含む高齢者研究における機械学習の有用性：転倒をアウトカムとした検討	○
シンポジウム48	SY48-3	内田 一彰	肥満・痩せと認知症	○
シンポジウム48	SY48-4	渡邊 一久	認知症/フレイル診療におけるmultimorbidityのマネージメント	○
シンポジウム49	SY49-1	渡辺 保裕	筋萎縮性側索硬化症と認知症	○
シンポジウム49	SY49-2	安藤 孝志	多系統萎縮症における認知機能障害	○
シンポジウム49	SY49-3	松井 尚子	多発性硬化症の認知機能障害と疾患修飾薬	○
シンポジウム49	SY49-4	中森 雅之	筋強直性ジストロフィーと認知機能障害	○
学会賞受賞講演	基礎	加藤 泰介	加齢による脳血管老化と脳小血管病、新しい治療戦略への展望	○
学会賞受賞講演	臨床	互 健二	認知症タウバイオマーカーの開発：画像から血液への統合的アプローチ	○
学会奨励賞候補演題	P001	三木 渉	高感度脳液プロテオーム解析による脳アミロイド血管症のバイオマーカー探索	○
学会奨励賞候補演題	P002	吉野 祐太	TREM1遺伝子発現の調節機構とアルツハイマー病との関連	○
学会奨励賞候補演題	P003	寺田 達弘	早期アルツハイマー病における活性化ミクログリアとタウの進展様式は関連する	○
学会奨励賞候補演題	P004	武 頴頴	Astrocyte reactivity in AD via 18F-SMBT-1 PET using 4 reference regions and A β	○
学会奨励賞候補演題	P005	月江 珠緒	脳脊髄液A β 38の脳内A β 蓄積との相関と認知症鑑別診断における有用性の検討	○
学会奨励賞候補演題	P006	篠原 充	CCN1/Cyr61は脳液A β やリン酸化タウとよく相関する	○
学会奨励賞候補演題	P007	廣田 淳	ADフレクリニカル期にA β 斑周囲のシナプスに出現するp-Tau217の病態生理学的意義	○
学会奨励賞候補演題	P008	眞鍋 達也	Phosphorylated tau as a biomarker for amyloid pathology in App; MAPT KI mice	○
学会奨励賞候補演題	P009	田平 万莉奈	正常脳タウの翻訳後修飾同定とタウ線維との比較	○
学会奨励賞候補演題	P010	後藤 志帆	C9orf72 FTD/ALSにおけるRAN翻訳制御因子としてのSRSF5の機能解析	○
学会奨励賞候補演題	P011	中島 円	脈絡叢機能低下が β アミロイド代謝に影響しアルツハイマー病理を促進させる	○
学会奨励賞候補演題	P012	佐野 和恵	プリオントン病脳におけるdsRNAセンサー発現異常	○